

## 富川市、一人暮らしのお年寄りを対象に 転倒事故防止に向けた住居環境を支援

### 一人暮らしのお年寄り向け住宅安全支援事業

所得・財産の選定基準なしに75歳以上の一人暮らしのお年寄りを対象にした「全国初」の支援

富川市（市長：チョ・ヨンイク）は、全国で初めて所得・財産の選定基準なしに75歳以上の一人暮らしの高齢者の転倒事故を防止するなど、安全かつ便利な住居環境を整えるため、「一人暮らしのお年寄り向け住宅安全支援事業」を推進する。

今年は、昨年とは異なり、1戸建て、長屋だけでなく、マンションに居住している75歳以上の一人暮らしのお年寄りも支援対象に含まれており、より多くの対象者が恩恵を受けられると期待されている。

韓国消費者院が実施した「2019年高齢者安全事故動向分析」によると、65歳以上のお年寄りに最も多く発生している安全事故は骨折だった。骨折事故が発生する主な原因は、転倒事故（81.3%）となっている。特に、長く滞在する上、安全であるべき住宅内における安全事故の発生割合は、76.3%を占めており、寝室・部屋、トイレ・バスルーム、リビングで滑って転倒する事故が多数発生していることが分かった。

このような転倒事故を防止するため、「一人暮らしのお年寄り向け住宅安全支援事業」を推進、トイレの安全バー・滑り止めマット、ハンドレールを重点的に設置している。

また、簡単ではあるが、見逃しやすい火災感知器とガス安全遮断器の設置だけでなく、LED照明及びリモコン、コンセント、水栓金具の交換まで、様々な小規模住宅環境改善サービスを提供する。

同事業の関連予算は、富川市老人福祉基金（農協・ビーシーカード積立金）の6,250万ウォンで運営されている。本事業を通じ、2021年に325世帯、2022年に342世帯を対象にお年寄りに住宅修繕サービスを提供しており、高い評価を得ている。

今年上半期の受付は、今月17日から21日まで、10の洞行政福祉センターの福祉課で行なっている。一人暮らしの1世帯当たり、人件費と材料費を含め、最大25万ウォンの支援を受けられる。申請者が希望する場合、材料費は本人が負担する条件で追加サービスを受けることも可能だ。

その他のお問い合わせは、富川市コールセンター（☎032-320-3000）に電話すれば、詳細について案内を受けることができる。

昨年、LED照明への交換と照明リモコンのサービスを受けたキム・〇〇氏は、「夜中にトイレに行く途中に転倒して怪我をするのではないかと心配していたが、今は、ベッドでリモコンで照明を点灯してから行けるので、とても便利だ」と話した。

チョ・ヨンイク富川市長は、「今年はマンションに居住している75歳以上の一人暮らしのお年寄りもサービスを申請することができることから、より多くの対象者が恩恵を受けられる」とし、「今後も一人暮らしのお年寄りが安心して生活できるよう、高齢者福祉政策事業の推進に積極的に取り組んでいく」ことを明らかにした。